

令和7年度全国学力・学習状況調査結果と今後の指導について（詳細版）

小豆島町教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象（悉皆調査）

- ① 小学校調査 小学校第6学年
- ② 中学校調査 中学校第3学年

(3) 調査事項

- ① 教科に関する調査 小学校（国語、算数、理科） 中学校（国語、数学、理科）

【出題内容】

- ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- イ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

【調査問題】

- 上記アとイを一体的に問う。
- 記述式の問題を一定割合で導入する。

- ② 質問調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

(4) 調査実施日

令和7年4月14日（月）～令和7年4月30日（水）

(5) 調査を実施した児童生徒数

- ① 小学校調査 4校 83人
- ② 中学校調査 1校 74人

(6) 結果の公表と活用についての方針

- ① 小豆島町教育委員会では、調査結果を分析し、本町の児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげていく。調査により測定できるのは、学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることを踏まえ、序列化や過度な競争が生じないよう数値による結果の公表は行わず、全体的な傾向を文章でまとめ、公表する。
- ② 小豆島町教育委員会は、分析結果を今後の教育施策・事業等に反映していく。

2 小豆島町の児童生徒の調査結果の概況

- 全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント以上の場合・・・「上回った」「下回った」
- 全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント未満の場合・・・「ほぼ同じ」

(1) 教科に関する調査の全体的な状況

① 小学校

- 国語・・・全国（公立）の平均正答率を下回った
- 算数・・・全国（公立）の平均正答率を下回った
- 理科・・・全国（公立）の平均正答率を下回った

② 中学校

- 国語・・・全国（公立）の平均正答率と下回った
- 数学・・・全国（公立）の平均正答率と下回った
- 理科・・・全体の結果公表なし

(2) 学力・学習状況の傾向と今後の指導で大切にしたいこと

① 小学校

ア 国語（14問）

出題問題について

○・・・良好な内容 ●・・・課題と考えられる内容

学習指導要領の領域等と結果	出題の趣旨
【言葉の特徴や使い方に関する事項】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる
【情報の扱い方に関する事項】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる
【我が国の言語文化に関する事項】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる
【話すこと・聞くこと】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	●目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる ●話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる
【書くこと】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	●各内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる ●図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる ●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる
【読むこと】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	●時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる ●事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	・ I C T 機器の使用機会が増えている中で、書く活動の時間を保障することで、既習漢字の定着を図る。 ・ 漢字の学習の際には、教科書本文中の使い方だけでなく、他の使い方についても確認する。
【情報の扱い方に関する事項】	・ 複数の情報を集め、自分の考えを伝えるために情報を整理する活動の際に、I C T 機器を活用したり、ノートの記し方に工夫を加えたりして、視覚化することの良さに気付かせる。
【我が国の言語文化に関する事項】	・ 日常から読書に親しむ時間を確保するだけでなく、各教科の授業において、読書が自身の学習に役立っていることを実感できるような指導を行う。
【話すこと・聞くこと】	・ 話し手の意図を捉えて聞き、根拠を基に発言する学習を充実させることで、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる力を身に付けられるようにする。
【書くこと】	・ 各教科の授業において、図表があることの利点を実感できるような学習を意識することで、自分の考えの根拠を明確にしたり、読み手に伝わりやすい工夫をしたりできるようにする。
【読むこと】	・ 低学年では、時系列を考えながら読む、中学年では、段落相互の関係を捉えることを意識して読む、高学年では、文章全体の要旨をまとめる活動を行うことで、文章全体の構成を意識して読む習慣を身に付けられるようにする。

イ 算数 (16 問)

出題問題について

○・・・良好な内容 ●・・・課題と考えられる内容

学習指導要領の領域等と結果	出題の趣旨
【数と計算】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	○示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる ●小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる ●分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる ●数直線上で、1 の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる ●異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる
【図形】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	●平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる ●台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる ●角の大きさについて理解しているかどうかをみる
【測定】 全国（公立）の平均正答率とほぼ同じ	○はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる

【変化と関係】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	<ul style="list-style-type: none"> ● 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる ● 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる
【データの活用】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	<ul style="list-style-type: none"> ● 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる ● 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる ● 簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
【数と計算】	<ul style="list-style-type: none"> ・「何を求めるのか」、「どの数を使うのか」を言葉や図で書き表す活動を取り入れることで、必要な情報を見いだす力を身に付けられるようにする。 ・通分が必要な理由を言葉で説明する機会を設定するなど、作業としてではなく、概念的に理解できるようにする。
【図形】	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の公式から新しい公式を導き出す活動を繰り返すことで、未知の問題にも、意欲をもって取り組む姿勢を身に付けられるようにする。
【測定】	<ul style="list-style-type: none"> ・測定器具について、学習したときだけでなく、他教科や日常と関連させながら、意図的に使用する機会を設定することで、正しい使用方法の定着を図る。
【変化と関係】	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験と結び付けながら、量感を伴った学習を進めることで、「10%」と「10%増」の違いを理解することができるようにする。
【データの活用】	<ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフの変化を視覚的・直感的に捉える学習を重視することで、数量を対応付けて考える力を身に付けられるようにする。

ウ 理科（17問）

出題問題について ○・・・良好な内容 ●・・・課題と考えられる内容

学習指導要領の領域等と結果	出題の趣旨
【「エネルギー」を柱とする領域】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	<ul style="list-style-type: none"> ● 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる ● 電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる ● 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる ● 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる

【「粒子」を柱とする領域】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	<ul style="list-style-type: none"> ●水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる ●水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる ●「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる
【「生命」を柱とする領域】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	<ul style="list-style-type: none"> ●ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる ●顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる ●発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる ●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる
【「地球」を柱とする領域】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	<ul style="list-style-type: none"> ○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる ○水の蒸発について、温度のよって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる ●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる ●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる ●水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる ●氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
【「エネルギー」を柱とする領域】 【「粒子」を柱とする領域】 【「生命」を柱とする領域】 【「地球」を柱とする領域】	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察に基づいた授業を重視することで、知識を基にした概念的な理解が深まるようにする。 ・「予想→実験・観察→結果→予想」というサイクルを意識した授業を行うことで、結果から次の実験・観察の計画や条件を考え、予想する、科学的に考える力の基礎を身に付けられるようにする。 ・自分の意見をもつだけでなく、意見を交流することで、考察する力を身に付けたり、理解を深めたりするようにする。 ・既習事項を他教科や生活体験と関連付け、言葉や図、表を用いて説明する活動を充実させることで、知識の活用や理解の定着、表現力の向上を図る。

② 中学校

ア 国語(14問)

出題問題について

○・・・良好な内容 ●・・・課題と考えられる内容

【言葉の特徴や使い方に関する事項】 全国（公立）の平均正答率とほぼ同じ	○事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる ●文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる
【話すこと・聞くこと】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	○資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる ●相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる ●自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる
【書くこと】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	○目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる ●書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる ●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる ●読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる ●読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる
【読むこと】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	○文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる ●表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる ●文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	・既習の漢字について、ドリル等を活用しながら繰り返し練習したり、読書活動を充実させたりすることで、日常生活の中で漢字に触れる機会を増やし、正しく書くことができるようにする。
【話すこと・聞くこと】	・ＩＣＴ機器を活用して発表する経験を積むとともに、文章とスライドを比較し、それぞれの効果を考える活動を取り入れることで、表現の工夫について考える視点を養うようにする。 ・他の教科の授業においても、話し合い活動の際に構成の工夫に着目した振り返りを取り入れることで、話を構成する視点について判断する力を身に付けられるようにする。
【書くこと】	・言語活動を意図的に取り入れ、目的意識をもった上で、集めた材料の客観性や信頼性を確認することで、根拠の妥当性を考えて意見を伝えるようにし、情報を取捨選択できる力を育成する。
【読むこと】	・教科書等を活用し、図やグラフの役割を意識して本文を読む機会を増やすことで、情報と情報との関係を理解して文章の展開を捉える力の向上を図る。

イ 数学 (15 問)

出題問題について

○・・・良好な内容 ●・・・課題と考えられる内容

学習指導要領の領域等と結果	出題の趣旨
【数と式】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	○素数の意味を理解しているかどうかをみる ●数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる ●事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる ●式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる ●目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる
【図形】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	○多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる ●証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる ●統一的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる ●ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる
【関数】 全国（公立）の平均正答率とほぼ同じ	○一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる ○事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる ●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる
【データの活用】 全国（公立）の平均正答率を <u>下回った</u>	●相対度数の意味を理解しているかどうかをみる ●必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる ●不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
【数と式】	・既習事項の復習や、ICT機器を用いた個人学習を繰り返し行うことで、基礎学力の向上を図る。 ・数に関する事象を考察する際、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめることで、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考えを説明することができるようにする。
【図形】	・図形の性質を考察する際、成り立つと予想した事柄について論理的に考察し、数学的に表現することができるようにする。
【関数】	・交流しながら事象を理想化したり単純化したりする機会を増やすことで、その特徴を捉え、数学的に解釈することができるようにする。
【データの活用】	・複数の集団のデータ分布に着目し、その傾向を比較して読み取り、伝え合う活動を通して、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるようにする。

ウ 理科 (10 問)

出題問題について

○・・・良好な内容 ●・・・課題と考えられる内容

学習指導要領の領域等	出題の趣旨
【「エネルギー」を柱とする領域】	●電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる
【「粒子」を柱とする領域】	○身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる ○科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる ●塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる ●加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかをみる ●化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる
【「生命」を柱とする領域】	●水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる
【「地球」を柱とする領域】	○露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる ●地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
【「エネルギー」を柱とする領域】 【「粒子」を柱とする領域】 【「生命」を柱とする領域】 【「地球」を柱とする領域】	・「課題→予想→計画→実験・観察→結果→考察→課題」というサイクルを意識した授業を行うことで、結果から次の実験・観察の計画や条件を考え、予想する、科学的に考える力の基礎を身に付けられるようにする。 ・自分の意見をもつだけでなく、意見を交流することで、考察する力を身に付けたり、理解を深めたりするようにする。 ・モデルを用いた予想、考察を取り入れるようにすることで、知識の習得だけではなく、概念的な理解を深められるようにする。

(3) 無回答率

状況

※全国（公立）の無回答率を下回った（無回答が少なかった）問題数

・小学校・・・（国語）14 問中 11 問 （算数）16 問中 10 問 （理科）17 問中 15 問
・中学校・・・（国語）14 問中 5 問 （数学）15 問中 2 問 （理科）10 問中 8 問

今後の指導で大切にしたいこと

- ・キーワードとなる言葉に印をつけながら文章を読んだり、自分の意見を伝える機会を増やしたりすることで、自信をもって回答することができるようにする。
- ・自力で思考したり、判断したりする活動や読書活動を増やし、定期的に振り返る機会を設定することで、相手の考えを読み取る力を身に付けることができるようにする。
- ・複数のグラフを比較したり、変化のようすを読み取ったりする活動を増やし、資料の見方や活用の仕方に慣れ親しむことで、記述式の問題に回答することができるようにする。
- ・自分の考えを、ICT機器を用いて表現したり、条件を満たす短作文を書いたりする機会を増やすことで、書くことに対する抵抗をなくしていくようにする。

(4) 質問調査（小豆島町の課題としている項目）

① 児童生徒に対する調査（肯定的回答の割合）

ア 自尊意識について

状況

【質問5】自分には、よいところがあると思いますか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）を下回った

【質問6】先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）を下回った

【質問7】将来の夢や目標を持っていますか

小学校・・・全国（公立）を上回った 中学校・・・全国（公立）を下回った

今後の指導で大切にしたいこと

- ・教職員の「褒める」、「認める」ことを大切にしかかわりや、児童生徒が自己のよさや成長を味わうことができるような場の工夫を継続する。
- ・小さな成功体験を積み重ねることで、繰り返し成就感を味わうことができるようにしたり、自分や友達の良いところを見つける機会を設けたりすることで、自尊感情を高めるようにする。

イ 規範意識等について

状況

【質問8】人が困っているときは、進んで助けていますか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）とほぼ同じ

【質問9】いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）を上回った

【質問11】人の役に立つ人間になりたいと思いますか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）とほぼ同じ

今後の指導で大切にしたいこと

- ・道徳や学活、総合的な学習の時間等において、人とかかわりを大切にし、積極的に体験的な学習を取り入れるようにする。
- ・いじめの背景についてみんなで考え、いじめはどのような理由があろうと許されないものであることを理解できるようにする。
- ・自己決定の場を大切に、児童会や生徒会等において、自分たちで話し合い、決定していく経験を積むようにする。

ウ コミュニケーション能力について

状況

【質問 13】自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）を上回った

【質問 31】5年生までに（中学校1、2年生のときに）受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）を下回った

【質問 35】学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）とほぼ同じ

今後の指導で大切にしたいこと

- ・児童生徒による主体的な学習を目指し、自分の考えを表現したり、交流したりする機会を設けることで、自分の考えを広げたり、深めたりする経験を積むことができるようにする。
- ・道徳や学活、総合的な学習の時間等において、友達の意見について考える機会を設けることで、自分の意見と友達の意見を比較して考えることのよさを実感できるようにする。

エ 学習に関する関心・意欲について

状況

【質問 45】国語の勉強は好きですか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）を下回った

【質問 46】国語の授業の内容はよく分かりますか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）とほぼ同じ

【質問 47】国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）を下回った

【質問 53】算数（数学）の勉強は好きですか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）を下回った

【質問 54】算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）を上回った

【質問 55】算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）を下回った

【質問 61】理科の勉強は好きですか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）を下回った

【質問 62】理科の授業の内容はよく分かりますか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）を下回った

【質問 63】理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）を下回った

今後の指導で大切にしたいこと

- ・教科への関心・意欲を高めるために、効果的にICT機器を活用したり、自分で考え、取り組むことができる児童生徒主体の授業づくりを進めたりするようにする。
- ・生活と関連する学習課題の設定や言語活動の充実、習得した知識・技能の活用を図る学びの場の設定等、児童生徒が「分かる」、「できる」と実感できるように、授業改善を進めるようにする。
- ・振り返りの場を設定することで、自分の伸びに気付いたり、見通しをもって次時の学習に取り組んだりすることができるようにする。

オ 家庭における学習習慣等について

状況

【質問 17】学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

小学校・・・「2 時間以上」の回答が、全国（公立）を下回った

中学校・・・「2 時間以上」の回答が、全国（公立）を下回った

【質問 19】土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

小学校・・・「2 時間以上」の回答が、全国（公立）を下回った

中学校・・・「2 時間以上」の回答が、全国（公立）とほぼ同じ

今後の指導で大切にしたいこと

- ・授業で学習したことを活用する課題や、予習で取り組んだことが生かされる授業を設定することで、家庭学習と授業での学習内容を関連付けるようにする。
- ・キャリア教育を充実させることで、自分の将来について考え、目標に向かって主体的に学習する習慣が身に付くようにする。

カ 情報教育について

状況

【質問 18】学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）

小学校・・・「1 時間以上」の回答が、全国（公立）を上回った

中学校・・・「1 時間以上」の回答が、全国（公立）を上回った

【質問 28】5 年生までに（中学校 1、2 年生のときに）受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか

小学校・・・「ほぼ毎日（1 日に複数の授業で活用）」の回答が、全国（公立）を上回った

中学校・・・「ほぼ毎日（1 日に複数の授業で活用）」の回答が、全国（公立）を上回った

【質問 30】5 年生までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか

(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・調査なし

(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる

小学校・・・全国（公立）を上回った 中学校・・・調査なし

(3) 楽しみながら学習を進めることができる

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・調査なし

(4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・調査なし

(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる

小学校・・・全国（公立）を上回った 中学校・・・調査なし

(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる

小学校・・・全国（公立）を上回った 中学校・・・調査なし

(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる

小学校・・・全国（公立）を上回った 中学校・・・調査なし

今後の指導で大切にしたいこと

- ・児童生徒の資質・能力の育成に向けて、ＩＣＴ機器を効果的に活用することで、「個を活かす協働的な学び」と「個に応じたきめ細かな指導」を一体化させていくようにする。
- ・生徒が有用感を感じながら学力を高められるように、ＩＣＴ機器の利活用の工夫、改善を図るとともに、情報モラル教育やデジタルシティズンシップ教育を推進していくようにする。

② 学校に対する調査（肯定的回答の割合）

ア 校内研修について

状況

【質問 18】授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

小学校・・・全国（公立）を上回った 中学校・・・全国（公立）を上回った

【質問 19】個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）

小学校・・・全国（公立）を上回った 中学校・・・全国（公立）を上回った

今後の指導で大切にしたいこと

- ・ＩＣＴ機器の効果的な活用を含めて研修を充実させ、実践することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていくようにする。

イ 生徒指導等について

状況

【質問 8】調査対象学年の児童（生徒）は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

小学校・・・全国（公立）を下回った 中学校・・・全国（公立）を上回った

今後の指導で大切にしたいこと

- ・児童生徒との触れ合いを大切にし、言動や表情など様々な角度から思いや考えをくみ取ることで、一人一人を大切にした生徒指導を進めていくようにする。
- ・教育相談を定期的実施するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用等、校内の教育相談体制を整えるようにする。
- ・なかまづくりを大切にし、安心して自分の気持ちを伝えることができる支持的風土を培うようにする。
- ・集団生活を通して、ルールの大切さに気付くことができるようにするとともに、児童会・生徒会、学級会などの機会を捉えて、ルールについて児童生徒が主体的に考えていく場を設定するようにする。

ウ 特別支援教育について

状況

【質問 67】児童（生徒）一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器について、次のような用途でどの程度活用していますか

（３）特別な支援を要する児童（生徒）に対する学習活動等の支援

小学校・・・「週３回以上」の回答が、全国（公立）を下回った

中学校・・・「週３回以上」の回答が、全国（公立）を上回った

今後の指導で大切にしたいこと

- ・授業だけでなく、学校生活全体を通して、児童生徒の特性に応じた合理的配慮が行われるよう、教職員が情報を共有するとともに、校内体制づくりを進めていくようにする。
- ・個別の教育支援計画を有効に活用することで、本人や保護者の願いをもとに、将来を踏まえた教育活動を行っていくようにする。

※ **令和7年度全国学力・学習状況調査の問題・正答例・解説資料等については、国立教育政策研究所のホームページをご参照ください。**